

深郷 presents Deep Acoustics Live Act vol.34

「Electro-Acoustic Textures」

●赤松正行氏は観客のiPhoneを含む複数のiPhoneによる音響パフォーマンス、加藤英樹氏は素数チューニングとフィードバックを使ったエレクトリックベースのソロと赤松氏とのDUO演奏、亀田暁彦氏はliveDSPによるアコースティックピアノの音響テクスチャ化、平尾義之はエレクトロ・アコースティックなサクソフォン音響。みな実験的ながら美しい音色を響かせる。

●赤松氏の作品「Snowflakes」は来場者のiPhoneによって演奏されますので、iPhoneをお持ちの方は、奮ってご参加いただければ幸いです。ご参加の方は、入場料を1,800円に割引かせていただきます。前日12/2までにUDIDを登録し、開演1時間前にご来場ください。詳しくは、以下のWebサイトをご覧ください。
<http://akamatsu.org/snowflakes/>



【赤松正行】

1961年、兵庫県生まれ。メディア作家。神戸大学文学部哲学科心理学専攻卒業。神戸市役所ソーシャルワーカーを経て、1997年、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)助教授に就任。2002年より同アカデミー教授。2006年、京都市立芸術大学大学院美術研究科にて博士(美術)を取得。

10代半ばよりエレクトロニクスを用いた音楽制作を始め、1980年からはコンピュータを使用、音楽だけでなく映像やネットワークなど様々なメディアへと制作範囲を広げる。特に、作品と鑑賞者の関係性や、作品自体の自律性に注目し、人とメディアの可能性を拡張することに興味を持っている。代表作には、50台のコンピュータによって音と映像を提示する「incubator」、鑑賞者の時間体験をリアルタイムに映像化する「Time Machine!」、パフォーマーの身体をコンピュータ制御する「Flesh Protocol」、ラジオ放送を解読してロボットが演奏する「decipher」などがある。ソロやセッションによる演奏活動も多く、「2061:Maxオデッセイ」(共著)や「Cocoa+Java」などの著作もある。また、neumannpianoおよびThe Breadboard Bandのメンバーとしても活動中。

近年はモバイル・デバイスにおける表現研究や、人と社会への影響の考察に取り組んでいる。特に、開発したiPhone用ネイティブ・アプリケーションは20個を超え、現在は公式SDK版に移行中である。 <http://www.iamas.ac.jp/~aka/>



【加藤英樹】

日本生まれ、ニューヨーク在住の作曲家・ベーシスト・マルチインストゥルメント奏者。Ikue Mori、Fred Frithとの「Death Ambient」のオリジナルメンバーである。リーダーとしてのグループは、「Green Zone」(大友良英、植村昌弘)、「OMNI」(中村としまる、秋山徹次)がある。自身の作曲作品としてはニューヨークKitchen委嘱のソロベース作品「Turbulent Zone」「Mystic Ship of Life」、彼のカルテット(Charles Burnham、Briggen Krauss&、Calvin Weston)の為の「Tremolo of Joy」などがある。他にNicolas CollinsとJames Feiとのコラボレートプロジェクトがある。またアナログシンセサイザコレクションのメンバーでもある。
<http://www.katohideki.com/>



【亀田暁彦】

音楽家。アヴァンハイブリットサイケデリックバンド、phallusor主宰。ここ数年、粒子音サイケデリアとでもいうべきものを妄想し、またそれを現前せしめるべく励んでいる。 <http://www.phallusor.com/>



【平尾義之】

electro-gadget/sax/turntable/video他、奏者、音響家、機器製作、思索その他。演奏、企画から裏方まで、ゆりかごから墓場まで、そして彼岸まで。 <http://www.deepacoustics.org/>